

## 5 定格

分電盤の定格は、次のとおりとする。

### a) 定格電圧

定格電圧は、表1による。

表1 定格電圧

相・線式	定格電圧V
単相2線式	100 200 <sup>a)</sup>
単相3線式	100/200
注 <sup>a)</sup> 対地電圧150V以下の場合に限る。	

### b) 定格電流

分電盤の定格電流は性能によって製造業者が決定する。ただし、主過電流遮断器がある場合は、その定格電流の80%とすることができる。

### c) 定格短時間耐電流

定格短時間耐電流とその最大波高値の標準値は、表2による。

表2 定格短時間耐電流

定格電圧 V	定格短時間耐電流 (交流分実効値) kA	最大波高値 (定格短時間耐電流の倍数)
100	2.5	1.4
	5	1.5
200	7.5 10	1.7

## 6 性能

### 6.1 絶縁抵抗

JSIA300による。

### 6.2 商用周波耐電圧

JSIA300による。

### 6.3 雷インパルス耐電圧

JSIA300による。

### 6.4 シーケンス

JSIA300による。

### 6.5 温度上昇

8.7により試験を行ったとき各部の温度上昇値は、表3の値以下でなければならない。なお、母線及び分岐導体のねじ締めなどによる接続部は、銀めっき、ニッケルめっき又はすずめっきとする。

表3 温度上昇

単位 K

測定箇所	温度上昇値
配線接続端子 <sup>a)</sup>	65
母線導体の中央部 <sup>b)</sup>	65
キャビネット上側内壁面 <sup>c)</sup>	30
注 <sup>a)</sup> 内部機器の端子を除く。 <sup>b)</sup> 導体の試験電流が通電している部分の長さの中央部とする。 <sup>c)</sup> 試験電流が通電している分岐過電流遮断器群の中央の上側とする。	